

認知症対応型共同生活介護 認知症グループホームくつろぎ

1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

2 今年度重点事業目標

(1) 専門的ケアの実施と個別支援

- ア 高齢者の特性や認知症を正しく理解し、専門的な知識や技術の向上に努め、根拠に基づいた視点で生活を支援する。
- イ 入居者の尊厳を守り、うれしさ、喜び、心地よさなど快の感情を表出したポジティブな心理状態の生活環境支援を図りQOL（生活の質・人生の質・生命の質）の向上に努める。
- ウ 一人ひとりの思いやニーズに寄り添い、役割を持ち生き生きと自信溢れた生活の継続に繋がるアセスメントの視点、意思の実現支援に取り組む。
- エ 健康管理、重度化体制整備、通院・往診等、事業所とかかりつけ医、地域の医療機関との連携を図る。
- オ 日常生活スタイルに合わせた危険シグナルキャッチに努め自由な行動の保障を図る。

(2) 職員の資質向上と人材育成

- ア パーソンセンタード・ケアの理念、ユマニチュードを基本としたコミュニケーション力（傾聴・伝え方）の向上、生きる自信に繋がるアセスメント力の向上、情報共有の重要性に着眼したチームケア、記録力の向上、高齢者の重度化対応など内部研修（OJT）外部研修（OFF-JT）をとおして必要な知識や技術を習得する。
- イ 個人研修計画や習熟度に合わせた幅広い研修受講形態を活用し、新たな資格取得チャレンジや自己啓発を推進し人材育成を図る。

(3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

- ア 2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、くつろぎの情報を発信、地域情報に接する。
- イ 感染対策を講じながら、外出など地域との交わり、関係作りの機会を増やし、社会資源の活用を図りつつ地域の一員として暮らせるよう取り組む。
- ウ くつろぎ便りの送付、通信手段を活用した密な情報提供により家族との連携に努め信頼関係（安心）の構築を図る。
- エ 近隣と協力し災害時の迅速な対応に備え、BCP計画に沿った防災訓練や緊急時対応訓練を実施し入居者の安全な生活を継続する。

(4) 経営基盤の確立

- ア 医療との連携を図りながら健康管理に努め、稼働率97%以上を目指す。
- イ あらゆる感染症予防対策の徹底、各災害の対策等を講じ有事の際の被害を最小限に抑えるよう努める。

(5) 労働環境の整備

- ア 職員の精神的疲労やストレスなど体調管理や早期相談体制の整備に努め、風通しの良い職場環境、風土作りに努める。
- イ 先進的なICT技術の導入等研究しリスクの軽減、職員の業務負担軽減を推進する。